

・西春奈（島根県）

さくらしべふる夜にとおく口

あ、

あ

花びらが終われば薬が降る。さくらが生殖器官を捨てる夜、そこから隔たりながらあける口。言葉未然の声は、さくらの痛みを伝える依り代のよう。

・宇井 麻千（大阪府）

冷たいコンクリートにまだ残る

小さな小さな血と

たくさんの花束とウエハース

散らばった事後の証拠品。花束もウエハースもいくらあっても、小さな小さな血の一滴には叶わない。どんな祝い事も贈り物も悲劇を引き立てる装飾となる。

・君風 波音（大阪府）

あやとりの小指の赤いこの紐を

ひっぱる人とだけ見る世界

二人だけで世界を創るかなしい遊び。けれど、他者に世界を崩されるよりはいいのかもしれない。あやとりのように世界がまた元の形に戻ったとしても。

・霧島春（愛知県）

夕暮れといちごの箱を

平行にしたまま帰る行為の名前

潰れないよう、傾かないように持ち帰るいちごの箱。夕空といちごの箱は、あかあかとした相似形を成して、夕空の重みを大切に運んでゆく。

・山本 欠伸（兵庫県）

これは霞草

これは狗尾草

（お月様の断面を

春の仕草が通り過ぎる）

月の断面を影絵あそびとして過ぎてゆく草ぐさ。春の仕草はきつとカスミソウやエノコログサのようにくすぐるようなやさしさがあるはず。

・マズルカ（山口県）

特売のみかんゼリーの底からは

淋しい爽やかな気分変調

気分変調症は一日中ずっと抑鬱の気分が続くという。ゼラチンのなかで時間が静止している綺麗なみかんのように、自らの気分から逃れられないのだ。

・松の梢（大阪府）

桜なし

おいなりさんの耳もなし

残る一円玉は

緑

私たちの世界はないもので溢れている。あればあるほどに、ないものが際立つのだから。唯一、手元にあると言える一円玉は長くあったことで錆びてしまった。

・小野寺 里穂（東京都）

ここから炎へ向かうみたいなの

もっと生っぽい引っ越しだった

行き先はかならずしも場所である必要はない。雨に向かってもいいし、炎でも構わない。人間以外はいつだって生っぽい引っ越しをしている。

・玄関（神奈川県）

貴方のパレットのその色素敵ね

天国までの踊り場

開発途上のテスト版の天国。ベータ版だからといって容易にたどり着けるわけじゃない。踊り場で話しかけられて、なんて答えればいい？

・風島凧（広島県）

ドーナツの穴から見えた鳥たちは

体温だけを信じ飛び立つ

穴があることで、向こう側という場所が生まれる。向こう側の鳥たちは、こちら側が何も信じられない人間であることを否応なく突きつけてくる。